

## 《資料》

## 第24回世界禁煙デー・宮城フォーラム開催報告 健康のためすべてのタバコを止めよう

安藤由紀子、安達哲也、菅野 庸、大高要子、山本蒔子

NPO 法人禁煙みやぎ

**キーワード：**世界禁煙デー・宮城フォーラム、ポケットPM<sub>2.5</sub>センサー、受動喫煙、加熱式タバコ、職場の喫煙対策

### はじめに

NPO法人禁煙みやぎは5月31日のWHO「世界禁煙デー」に合わせて1995年から毎年宮城フォーラムを開催している。WHOのタバコ規制枠組条約(FCTC)や東京オリンピック開催にむけた受動喫煙対策など毎年さまざまなテーマに取り組んできた。今年第24回は「健康のためすべてのタバコを止めよう!」と題して開催した。基調講演を、加熱式タバコについて日本禁煙学会理事・松崎道幸氏に、そしてシンポジウムでは建設業などの3社の企業から、職場の喫煙対策について発表いただいた。2018年5月27日日曜日、藤崎一番町館5階イベントホールで開催し、医療関係者のみならず、市民、企業、行政、大学関係者、学生等、多方面から約180名の参加があった。

### 藤崎の禁煙推進の取り組み:禁煙福袋について

昨年から引き続き、仙台市では老舗である藤崎百貨店の御好意により藤崎一番町館を会場として「世界禁煙デー・宮城フォーラム」を開催している。藤崎百貨店の禁煙推進の取り組みのひとつに禁煙福袋がある。NPO法人禁煙みやぎも協力している。藤崎営業企画部・今井大二郎氏より藤崎の禁煙推進の取り組みである禁煙福袋について以下の報告があった。

藤崎ではNPO法人禁煙みやぎの活動に賛同し、

### 連絡先

〒981-1505 宮城県角田市角田字田町123番地  
金上病院 内科 安藤由紀子  
TEL: 0224-63-1032 FAX: 0224-62-1036  
e-mail: y-ando@kanagami.or.jp  
受付日 2018年12月4日 採用日 2019年2月19日



写真1 NPO法人禁煙みやぎ理事長・山本蒔子氏の開会挨拶

ご協力いただきながら「禁煙治療専門医によるサポート付き禁煙達成!福袋」を2019年1月2日・3日の初売りに販売予定である。価格は税込み5,000円。キックオフイベントで禁煙外来担当医による禁煙アドバイスを受け、その後も個別アドバイス、スタッフによる禁煙応援メッセージ等をいく度か配信し、禁煙達成をサポートする。そして、スタートから3か月の禁煙を達成した際には、来年5月のこの世界禁煙デー・宮城フォーラムにて表彰し、記念品として5,000円相当のグルメギフトを進呈する。この禁煙福袋の取り組みを通して、少しでも社会の禁煙促進・啓発に協力していきたい。

### 禁煙外来ロールプレイ～禁煙するなら禁煙外来へ行ってみよう～

続いて禁煙外来を受診することにより禁煙が容易にできることを知っていただくために、禁煙外来のロールプレイを行った。NPO法人禁煙みやぎ理事長・山本蒔子氏が医師役を担当し、患者役の方と禁煙外来の実際の様子を分かりやすく示した。

## 基調講演「加熱式タバコも危険」

川村 歯科・かみ合わせ矯正歯科医院 禁煙みやぎ会員の川村秋夫氏が座長となり基調講演に入った。講師は日本禁煙学会理事 道北勤医協旭川北医院院長・松崎道幸氏で「加熱式タバコも危険」と題して講演した。

フィリップモリスのホームページには、「私達は紙巻きタバコを止める潔い決意をした。」という内容が掲載されているが、主力商品を変えるということは、もっと儲かることをやりますと株主へ宣言していることに他ならない。日本たばこ産業株式会社やブリティッシュ・アメリカン・タバコも同様である。紙巻きタバコとタバコを燃焼させずに加熱する加熱式タバコは、葉タバコを使用しているため医薬品、医療機器等の品質、有効性および安全性の確保等に関する法律(以下薬機法)の厳しい規制を免れており、たばこ事業法で管理されている。ニコチン入りリキッドを使用した電子タバコは薬機法で規制され、日本国内で承認されていない。これに対し、ニコチンなしリキッドを使用した電子タバコがあるがこれは子どもが吸っても処罰されず、パソコンのメモリスティックのようなデザインの電子タバコもあり若者が手を出しやすく、電子タバコで吸引する大麻リキッドが流行の兆しがあり注意が必要である。

加熱式タバコのアイコスにはマイクロチップが入っており、情報収集のアプリソフトが開発中であり、デバイス購入時に登録するユーザー情報はすでに集められている。日本においては、加熱式タバコは急速にシェアを拡大し、アイコスはタバコ製品の総売り上げに対し、10%を占めるまでになった。特に2016年にあるTV番組の放送後に急激に吸う人が増え、プルームテックやグローは後れをとっている。さらにアイコス機器は3割値下げした影響もあり、17~71歳の日本人8,600万人中、アイコスの利用者はついに500万人を突破した。このように日本では急速にシェアを拡大したにもかかわらず、アイコスは米国では許可が出ず販売されていない。

フィリップモリスはアイコスの安全性を確認するために21項目の検査を行ったが、20項目で紙巻きタバコと同じように有害であるという結果が出た。しかも残りの1項目は、もともと喫煙者と非喫煙者でほとんど違いのない検査であった。また、加熱式タバコのタールは0であると思っている人が多いが、タバコの三大有害物質を調べたところ紙巻きタバコに

比してアイコスではタールは70%、ニコチンはほぼ同様で100%、一酸化炭素は1%であった。またフレーバーを使うことでタバコに女性や子どもも引きこまれやすくなり、その結果ニコチン依存となり、紙巻きタバコ喫煙もふえてしまうことや、フレーバーそのものも気管支の炎症を引き起こすなど健康障害の危険がある。

加熱式タバコのニコチンは紙巻きタバコよりも急速に取り込まれることが動物実験でわかったが、このことは、紙巻きタバコよりもニコチン依存症になりやすいことを示している。また、同様に著明な血管機能低下をきたし、血管が固くなるという結果が出た。加熱式タバコのミストにさらされた非喫煙者からは、吐きそうなど強烈な臭いがする等の感想があり、のどの痛みや気分不良を49%の人が訴えた。

また禁煙に役立つと思っている人がいるが、禁煙補助薬バレニクリンでは36.8%の人が禁煙達成、自力では33.0%の人が成功したのに対し、加熱式タバコでは24.5%の人しか禁煙できず、むしろ禁煙の邪魔をしていることが示された。さらに、加熱式タバコ使用者の72%は紙巻きタバコも吸っており、ニコチン依存症は治らず紙巻きにもどる人も多い。吸えない場所では加熱式タバコを吸い、そうやってニコチン依存症を続けることで紙巻きタバコも止めることができずニコチン依存症の慢性化につながっている現実がある。

若者や子どもはタバコがゲートウェイドラッグとなっている。加熱式タバコによる火災、爆発事故も増えており、リチウムイオン電池から発火し死者も出ている。

以上から、加熱式タバコは、1.紙巻きタバコなみの健康被害の恐れがある。2.紙巻きタバコ喫煙を促進する商品である。3.子どもの喫煙を促進する商品である。4.禁煙の場所で使用を禁止するのが当然である。5.FCTCによる規制は当然である。6.禁煙治療の対象にすべきであると結んだ。

## シンポジウム 職場の喫煙対策の実際

菅野庸氏(禁煙みやぎ理事、こころのホスピタル・古川グリーンヒルズ院長)が座長となりシンポジストは石川広志氏(石川建設株式会社 常務取締役)、横山康氏(窪田電気工事株式会社 代表取締役)、石丸智弘氏(石丸防災電気有限会社 取締役社長)の3名であった。

最初に石川広志氏は「石川建設の喫煙状況について」と題して発表した。総合建設業である職場では事務職の喫煙率は低いが、現場には実に多種多様な業種が入っている。現場で働く多くの職種の作業員の喫煙率は延べ人数(各種作業に従事している人数×作業日数)で計算すると50%以上と高いとの報告であった。対策として喫煙室は椅子なしにしてゆっくりできないようにしている。また、非喫煙者を会社として表彰し、禁煙教育や禁煙外来受診を奨励するなどの対策をすすめている。禁煙できるような環境づくりをさらに積極的に進めていきたいとのことであった。

横山康氏は、「職場における喫煙の実態」と題して発表した。地域密着型電気工事会社の職場では「健康日本21」が始まった時から会社としても目標を立て、さらにタバコのパッケージに警告文が書かれた時からは事務所を分煙化した。そして禁煙する社員が増えていった。禁煙外来を受診し、成功した社員もいる。自然と禁煙をすすめる声かけができる職場環境となってきた。平成29年5月には「職場健康づくり宣言認定書」を取得した。今後さらに職場の健康作りを推し進めたいと結んだ。

石丸智弘氏は「社員の健康を守る」と題して発表した。受動喫煙対策を取ることが喫緊の課題となっている。健康に悪いと知っていてもタバコをなかなかやめられない社員もいる。そこで喫煙室はガラス張り、すし詰めにしてできるだけ遠くに作っている。格好悪いので、吸うのを止める者も出ている。熱心な女性事務職員がたった一人で、タバコの吸い殻が砂地に差し込まれている写真を撮り「タバコすな」(タバコ吸うな)と呼びかけ「タバコすな」(タバコと砂)の写真を事務室のあちこちに掲示して禁煙を推進したことで分煙化ができ、現在はさらに喫煙者が減少していると報告した。

## PM<sub>2.5</sub> センサーによる空気環境測定の報告と総合討論

最後に、禁煙みやぎ副理事長の大高要子氏から「PM<sub>2.5</sub>センサーによる空気環境測定の報告」がなされた。

タバコの煙を客観的に測定できるスマートフォンに接続したポケットPM<sub>2.5</sub>センサー(スマートフォン接続型空気質センサー、ヤグチ電子工業株式会社)



写真2 総合討論の一場面

左から松崎道幸氏、石川広志氏、横山 康氏、石丸智弘氏、山本蒔子氏

を用いて、分煙と禁煙の仙台市内のコーヒー店で測定した結果を報告した。分煙店では、喫煙室の中は800  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超える非常に高い濃度であり、その際には禁煙区域も130  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ と高い濃度になっていた。一方、禁煙の店はすべて3~3.2  $\mu\text{g}/\text{m}^3$ とたいへんきれいな空気環境を示した。分煙では受動喫煙を防止できないことは明らかであることを訴えた。

その後総合討論に移り、フロアーからの質問や感想も多く、活発な意見交換があった。特に産業医をしている参加者から、「これからは自信を持って、加熱式タバコは危険と言える」と感謝の発言があった。

## おわりに

安達哲也氏(禁煙みやぎ理事 東北医科薬科大学若林病院 呼吸器内科)の閉会のあいさつでは「加熱式タバコを含むすべてのタバコの害から市民を守るため禁煙外来を知り利用し、職場の禁煙対策を推し進めるためさらなる活動を展開していきましょう」と呼びかけ、今年のフォーラムは終了した。

会場には、仙台市医師会作成のタペストリーや禁煙みやぎ作成の禁煙啓発ポスターの展示があり、講演開始前の時間を利用して、熱心に見入る参加者の姿が目立った。体験コーナーでは、肺年齢測定、血管年齢測定や肌年齢測定を多くの方が体験する様子が見られた。

「世界禁煙デー・宮城フォーラム」の前後の期間には、青葉通地下道ギャラリー(5月16日~5月30日)、藤崎百貨店青葉通玄関口(5月14日~5月26日)、宮城県庁(5月31日~6月6日)の3か所において禁煙に関するポスター展示も行ない、一般市民を啓発することができた。